

商店街活性化事業計画の概要

地域

東京都世田谷区

認定日

平成23年3月31日

事業名： 新たな街の魅力づくり・イベントによる
「しもきた・オープンイノベーションタウン事業」

事業者名： 下北沢一番街商店街振興組合（東京都世田谷区）

事業実施期間： 平成23年4月～平成28年3月

■商店街活性化事業の概要

・新たに商店街と地域住民の活動交流拠点を整備することで、下北沢に人を惹きつける魅力的な情報発信のコアを形成する。また、これまでの商店街活性化の枠を超え、地域内外の能力ある人が集積し、交流を深める環境や仕組みづくりを行うことにより、下北沢のまち全体で産業のイノベーション支援機能を有する新産業のインキュベーター、「しもきた・オープンイノベーションタウン」を形成し、地域ブランド化を図る。

■商店街活性化事業の内容

◆地域住民ニーズ(アンケート調査より)

・商店街の魅力向上への要望については、「散策に適した環境整備」、「商店や商品など街の情報提供」、「魅力的なイベントの実施」、「多様で豊富な品揃え」へのニーズが高く、今後の商店街への取組みへの要望については、「店主の顔が見えるような個性的な店舗やこだわりの店舗」、「空き店舗や落書きなどの解消」、「芸術やお笑いなどと商店街の連携による新たな魅力づくり」、「生活に潤い、豊かさや教養、健康情報などが得られる交流の場の提供」があげられた。

◆実施計画の主な内容

・既存店舗の魅力アップ

地域内外の知と技と心の融合が創出するブランドとして「しもきたブランド」商品の開発を行うとともに、遠方からの買い物客や外国人観光客などの来街者に対応するため、商店街コンシェルジュを設置する等、複合的に各種事業を展開することで、商店街全体の魅力を高める。

・地域イノベーション

子どもから高齢者まで、感性を豊かに交流を深める場を提供するため、寺子屋「感性いちばん塾」と題し、各種体験教室を実施する。また様々な分野で活躍するアーティスト等のステージ・作品発表の場を提供し、イベントを開催することで、商店街の新たな魅力を発信する。

・活動交流拠点の整備

商店街事務所の空きスペースを利用し、商店街と地域住民の活動交流拠点を整備する。また、この拠点を都市と地方の交流とフレッシュ人材の情報発信拠点としても位置づけ、しもきたフレッシュ市(農産物販売等)を実施する。さらに、トライアル店舗の整備を行うことで、新規出店や起業を地域全体で支援する仕組みを構築する。

■商店街活性化事業計画の目標

・商店街の来街者数を実施計画終了時に平成22年と比較して3%増を目指す。

平成22年の来街者数 20,820人/日 → 平成27年の来街者数 21,445人/日

【商店街の様子】



【天狗祭り】



【下北沢一番街阿波おどり】

